

# 子檀嶺岳

2006年4月12日

久家 隆男

ゴールデンウィークとなれば当然のことながら人出が多く、それに桜が重なれば人混みの二乗になると思っていた。しかし、例外もあった。

先日、上田駅の西方で別所温泉の近くの子檀嶺岳（こまゆみだけ）に一人で登った。地元では上田のmatterホルンと言われているようで、頂上近くの登りは両手が必要な位の急坂だが、特に危険な所はない。生憎の小雨だったが、南面に大岩壁を誇る山頂は好天ならば素晴らしい展望が期待できそうである。ところが、連休のさなかの日曜日だというのに、全く誰にも会わない。この山には、どんな人がいつ登るのだろうか？

下山時にふと左下を覗くと、緑色の斜面の一部が桃色に染まっていた。登山口に下ってから、バス停とは逆方向に凹凸の激しい林道を辿ってみた。20分も登ると突然に30本以上の満開の桜に囲まれた。ここも何故か全く人気がない。花吹雪を独り占めして、ゆっくりと休憩した。やがて、私だけが知らないうちに天変地異が生じ、人類が消滅してしまったのかと、SF的発想が浮かんできた。

トンガリ山は、上越のmatterホルン（大源太山）や西上州のmatterホルン（小沢 岳）等と各所で言われています。

1994年に新ハイに投稿したものです。

